

令和6年度 第2回学校運営協議会 会議録

日時 令和6年11月8日（金） 15：30～16：45
場所 会議室
出席者 委員：鈴木、小原、酒井、二瓶
職員：校長、副校長、教頭、奈良岡、倉田、小川、今川、永重、
長倉、亀形、谷川、渡邊

次第

- 1 校長あいさつ
- 2 令和6年度 学校教育計画（目標）〈中間評価〉について
- 3 令和6年度 「第1回生徒による授業評価の結果」について
- 4 令和6年度 県立高校指定校事業について
- 5 総合的な探究の時間プロジェクトチームとの意見交換
- 6 その他

会議内容

■ 1 校長あいさつ

- ・体育館でのトークイベントなど、総合的な探究の時間での工夫やこれらを計画しているプロジェクトチームの若手との意見交換を本日は是非行っていきたい。
- ・今年度の文化祭の無事開催の報告。

委員：3学年の総合的な探究の時間について、発表内容やテーマはどのように決めたのか。

職員：生徒に自由に決めさせた。各自の興味のあるテーマに沿っての発表やプレゼンテーションの準備の練習を行った。今後は学年発表やポスターセッションへの参加の予定。

委員：大学などでの研究の練習となって良い取り組みである。

委員：総合的な学習について、小学校では3年生から実施しており企業との連携も行っている。それらのキャリア教育が高等学校や将来に繋がっていくと考えている。

委員：中学校での総合的な探究の時間の内容は、前年を踏襲して決まったものが多い。立野高校はどのような経緯で内容を決定しているのか。

職員：プロジェクトチームの発足が昨年であり、新たなことに挑戦している。生徒の将来に対しての視野を広げたいという思いから昨年度からトークイベントなどを計画した。

委員：地域イベントも昨年からか。

職員：同様に昨年から実施している。色んな経験を1年生の頃からさせたいという狙いがある。

委員：2年生の修学旅行についての学習はどのように計画をしているのか。その狙いは。

職員：修学旅行前から旅行先の地域に関する事前学習をさせた。実際に現地に行ってから確認や新たな視点の発見を目指していた。全員が目的を持って修学旅行へ行くことを目指した。

■ 2 令和6年度 学校教育計画（目標）〈中間評価〉について

①カリキュラム：教員全員、授業力向上の講習を受けた。「深い学び」について今年度は研究中。公開研究授業での実施を予定している。

②生徒会：文化祭の昨年の反省点として、文化祭をやっていることがわかりにくいという点があった。今年度は装飾（校内外のポスターなど）を工夫した。

委員：例年より活気があった。（約3000人来校）

生徒支援：コーディネーター会議、定期開催が目標ではあった。学年ごとや全体での開催がまだ少ない部分もある。

委員：中学校では月に1回は実施している。問題行動などの情報共有、その対応について話し合っている。また毎朝の打ち合わせ前に確認、共有をしている。

委員：小学校では時間を確保し実施している。見守っていく体制づくりをしている。

職員：学年内での情報共有や協力はできている。しかし学年間での共有がまだ課題である。生徒の季節や時期的な気持ちの落ち込み、緊急への対応はできている。

職員：1学年内でもできている。生徒から何かあれば教員間で共有、話し合いができている。

③キャリア：1、2年生は分野別での学習を実施。大学から講師を招き講義を受け、自分の将来のイメージを膨らませている。3年は進路支援、模擬面接や課題の添削といった生徒のサポートを重点的に行なっている。課題としてはキャリアパスポートの活用が現在できていない。どのように活用していくべきか、小学校や中学からの意図、活用は。

委員：小学6年生で振り返りを行い、小学校間ではしっかり記入し中学へ引き継ぐ事になっている。

委員：中学校も小学校同様、最終学年で全体の振り返りを行っている。ただ高校でどう活かせるのかを疑問に思っている。

職員：現在2年生の中学校で使っていた冊子は保管している。自分の進路活動の際、過去のものを参考にし、まとめてあるものを参考にすることはできている。

校長：高校3年生の最初でキャリアサポートを見直してもいいのではないかと。担任も見られていないこともある。持っていない生徒もいない。（近隣以外の出身）

校長：小中学校の連携より中高の連携が課題である。

委員：高校生の進路の傾向は現在どの様になっているか。

職員：やりたいことがない、見つからない生徒が多い印象がある。進路が決まった生徒が入学までにやっておくべきことは何か。

委員：引き続き勉強を頑張ること、怠けないことが重要である。大学の見学などをしてモチベーションを維持させてみては。

職員：校外学習では3年生に大学の施設を体験させた。2年生は夏の課題として複数の大学に行かせ、知って比べることをさせた。

④生徒会：あいさつ運動について、それぞれの自動・生徒に好評。互いにいい影響が出ていると感じる。今は部活動の生徒がメインだが、他の生徒にも参加させてみては、という話が出ている。

委員：立野高校は外国籍の生徒は多いのか。

副校長：10名程度在籍している。生徒の日本語指導は問題ない。3者面談で通訳を利用する場面がある。今年の1学期にドイツからの留学生が来たが、生徒は積極的に話しかけており、良い交流になった。

⑤広報渉外：第一回学校説明会は無事実施ができた。昨年に比べて参加人数が増加し急遽椅子を増やした。生徒による校内見学ツアーの実施も行い、生徒会を含めた生徒も積極的に参加している。第一回の反省点を活かし、12月に次回の説明会を実施する。

職員：小学校や中学校では避難時の指示、訓練はどのように実施、訓練をしているか。

委員：毎月訓練を実施している。内容は火事や地震、不審者に対してなどの訓練を実施。予告なしでの訓練も行っており、また地域防災拠点など地域連携も行っている。

委員：年に2回の訓練を実施をしている。地震訓練での垂直避難や緊急連絡先やピックアップの確認を行っている。

職員：有事の際の学校間での連携を強化していきたい。

■ 3 令和6年度 「第1回生徒による授業評価の結果」について

職員：学年間の評価の偏りが減少した。課題として、年度ごとでの教員入れ替わりの際、引き継ぎがなされているか、次年度に改善点などの持ち越しができていくかが課題である。次年度以降もこの課題などについては考え、長期的に検討していく必要がある。小中学校での入れ替わりのタイミングでの工夫や取り組みはあるか。

委員：年度ごとの引き継ぎについては重点的にはできていない。

委員：中学校と同様の状況である。

若手の人材育成について

委員：段階的に上の教員が少し下の年代の教員を育てていく。

委員：若手をチームに取り込み、周りと共に共同していく体制を作っている。

委員：上の年代の教員が下の年代の教員を育てる環境になっていない。基本的には自ら成長していく、自己啓発していったほしいとも考える。

職員：日頃からの関係やコミュニケーションが大切。

委員：生徒との関わりで何が一番難しいか。

職員：注意の仕方や日頃の生徒への対応。

委員：言葉遣いや対応はどのような工夫をしているか。

職員：わざと砕けた言い方をする、キャラクターを使い分けている。

委員：保護者への依存度が高くなっている。生徒が自分で自分のことをなんとかしようとはしていない。

職員：染髪やネイルなどの装飾、自己管理は言われるまでではなく、自分で考えるようになってほしい。